

2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 12 日作成)

小委員会名	自然循環型環境の設計刊行小委員会		主 査 名：小瀬博之 就任年月：2011 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (企画刊行運営委員会)		委員長名：佐土原 聡 主 査 名：久野 覚
設 置 期 間	2011 年 4 月 ～ 2013 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・「自然循環型環境の設計」刊行に向けての調査・分析 ・原稿の執筆・編集 ・出版後のシンポジウムの開催 		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	主査：小瀬博之 (東洋大学) 幹事：田澤龍三 (清水建設) 委員：浅香英昭、猪又和夫 (ピーエーシー)、岡田誠之 (東北文化学園大学)、紀谷文樹 (東京工業大学名誉教授)、興水 知 (加倉工業)、須藤 哲 (イー・フィールド)、水谷敦司 (竹中工務店)、養父志乃夫 (和歌山大学)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2012 年度予算	100,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	『自然循環型環境の設計 水と緑による地域の再生』
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	(名称) 第 36 回水環境シンポジウム「自然循環型環境の設計 水と緑による地域の再生」 参加者数 32 名 (資料名) 同上
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 刊行に向けての追加調査を予定通り実施できた。 2. 原稿の取りまとめ、編集、刊行を実施できた。 3. 出版に関係するシンポジウムを開催することができた。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 委員会活動終了後の継続的な「自然循環型環境の設計」の普及、継続的な調査、予定されている簡体中国語版出版に対する対応が必要である。

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2012 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<ul style="list-style-type: none"> ・「自然循環型環境の設計」刊行に向けての調査・分析 ・原稿の執筆・編集 ・出版後のシンポジウムの開催 <p>の3つの活動を掲げて活動を行った。</p> <p>1999 年度から続いてきた長年の研究活動を取りまとめて刊行するために全力を尽くし、予定よりも早く出版することができ、これに関連する水環境シンポジウムも開催することができた。</p> <p>よって、当初の目的・目標を十分達成することができたと自己評価できる</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。